

4 - 4 伊豆半島東部地域における全磁力観測(1983年1月 - 1984年4月) Geomagnetic Total Intensity Observations in the Eastern Part of Izu Peninsula (January, 1983 - April, 1984)

東京大学地震研究所
地震予知移動観測室地 磁気移動班
Geomagnetic Mobile Survey
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

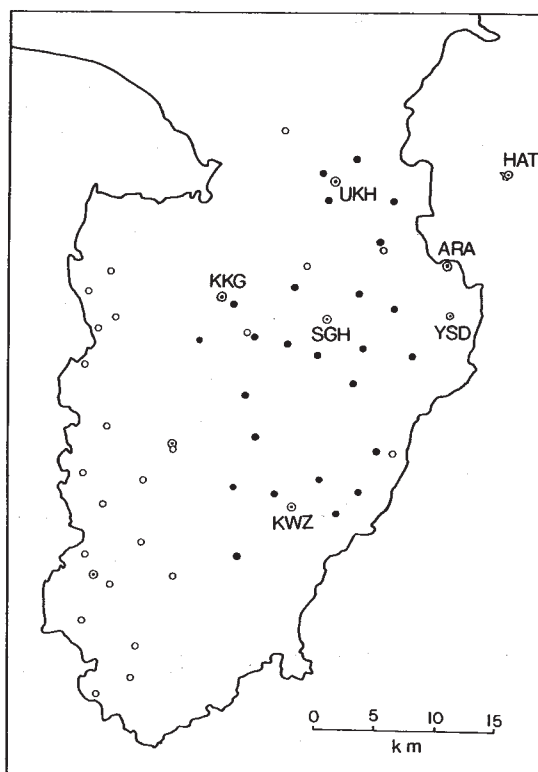
前報¹⁾に続き、表題の期間における全磁力観測結果を報告する。第1図に伊豆東部地域のプロトン磁力計観測点分布を示す。第2図には鹿野山を基準とした、伊豆東部6ヵ所の全磁力変化(夜間単純差の5日平均)を示す。1983年12月から84年1月の変化は、鹿野山の異常増加による。この現象は1981年と82年の同時期に現われ、83年は現われなかった。初島(HAT)の大きな変動は、建物を建てられたためである。

第3図は、菅引(SGH)を基準とした、伊豆各地の変化で、夜間(0hから5hまでの毎分値)の単純差日平均を示す。吉田(YSD)に見られる変動は、潮汐のダイナモ効果によると思われる。

伊豆では地殻活動の活発な時期に、いくつか顕著な全磁力変化が見出された。しかしこの1年余りの間、地震活動はごく静かであって、全磁力の変化もそれを反映してか、ほとんど認められない。地殻活動の静穏期には、地磁気の異常変化も無いことを確かめることは、重要と考える。

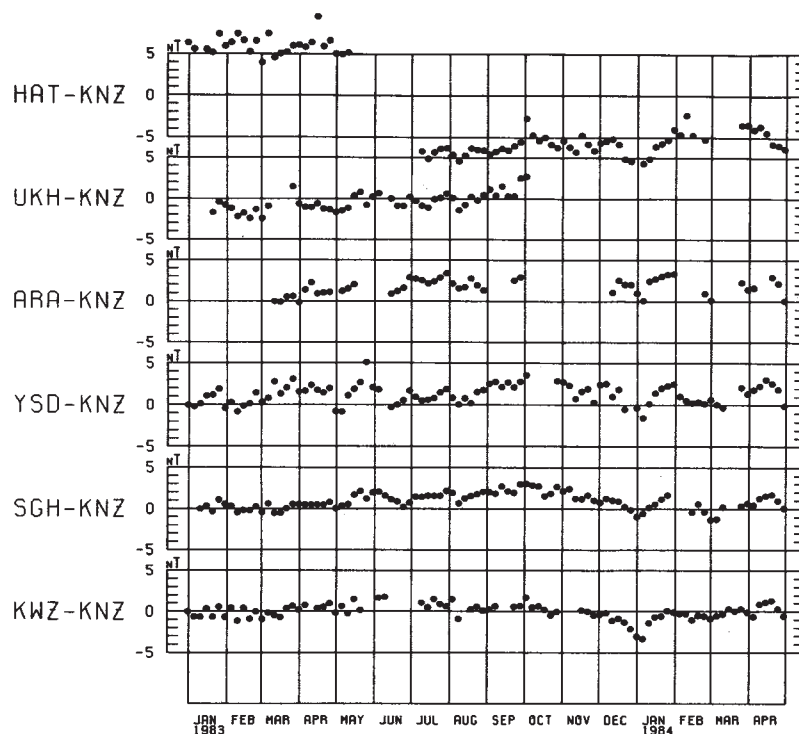
参 考 文 献

- 1) 地磁気移動班：伊豆半島東部地域における全磁力観測(1981年11月 - 1983年3月), 連絡会報, 30(1983), 171 - 174.



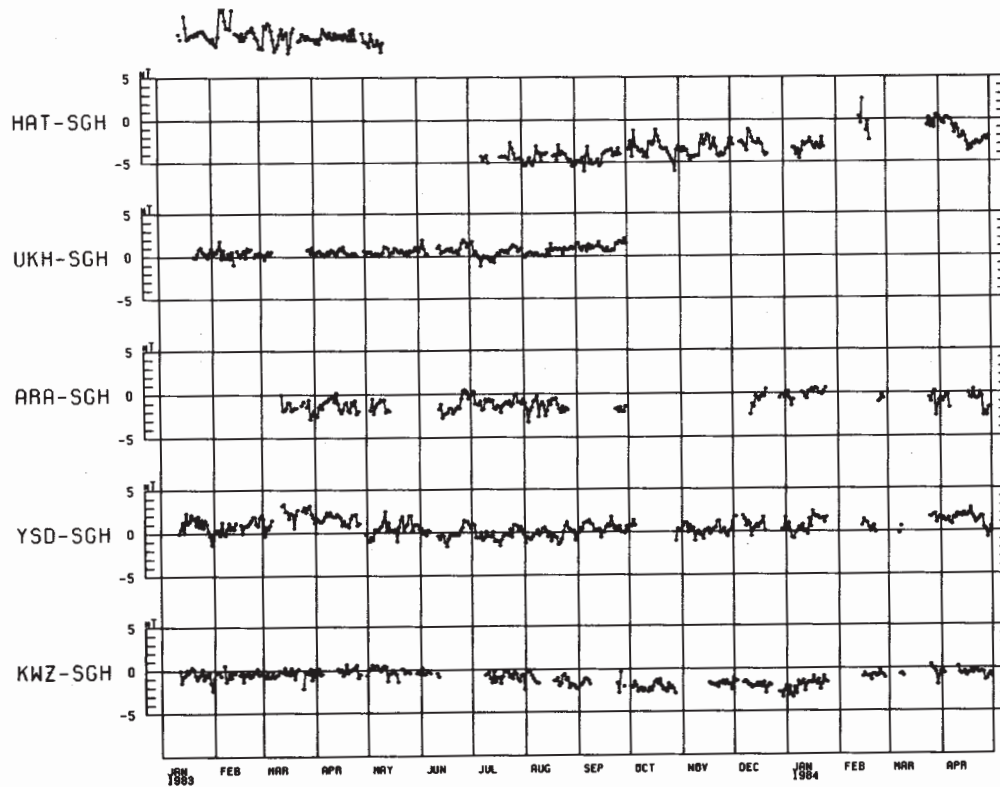
第1図 伊豆半島東部における全磁力観測点分布。二重丸：連続観測点，
黒丸：くり返し測量点

Fig. 1 Location of temporary magnetic stations (double circles) and survey points (black dots) in the eastern part of Izu Peninsula.



第2図 伊豆東部の各点の鹿野山を基準とした全磁力変化。夜間単純差の
5日平均

Fig. 2 Changes in the total force intensity at HAT, UKH, ARA, YSD, SGH and KWZ relative to KNZ (Kanozan Geodetic Observatory, about 100 km east of Izu). Five-day means of simple differences of nighttime values are plotted.



第3図 伊豆東部の各点の菅引を基準とした全磁力変化。夜間（0 h ~ 5 h 毎分値）単純差の毎日平均

Fig. 3 Changes in the total force intensity at HAT, UKH, ARA, YSD and KWZ relative to SGH. Daily means of simple differences of nighttime values (0h - 5h JST every minutes data) are plotted.